

nichi-nichi



Winter

「日々のこと」

みなさんはじめまして、こんにちは。

初めてじゃないみなさん、今日もこんにちは。

『日々（にちにち）』は、

想像力を大事にすることをモットーとした《ヨミモノ》です。

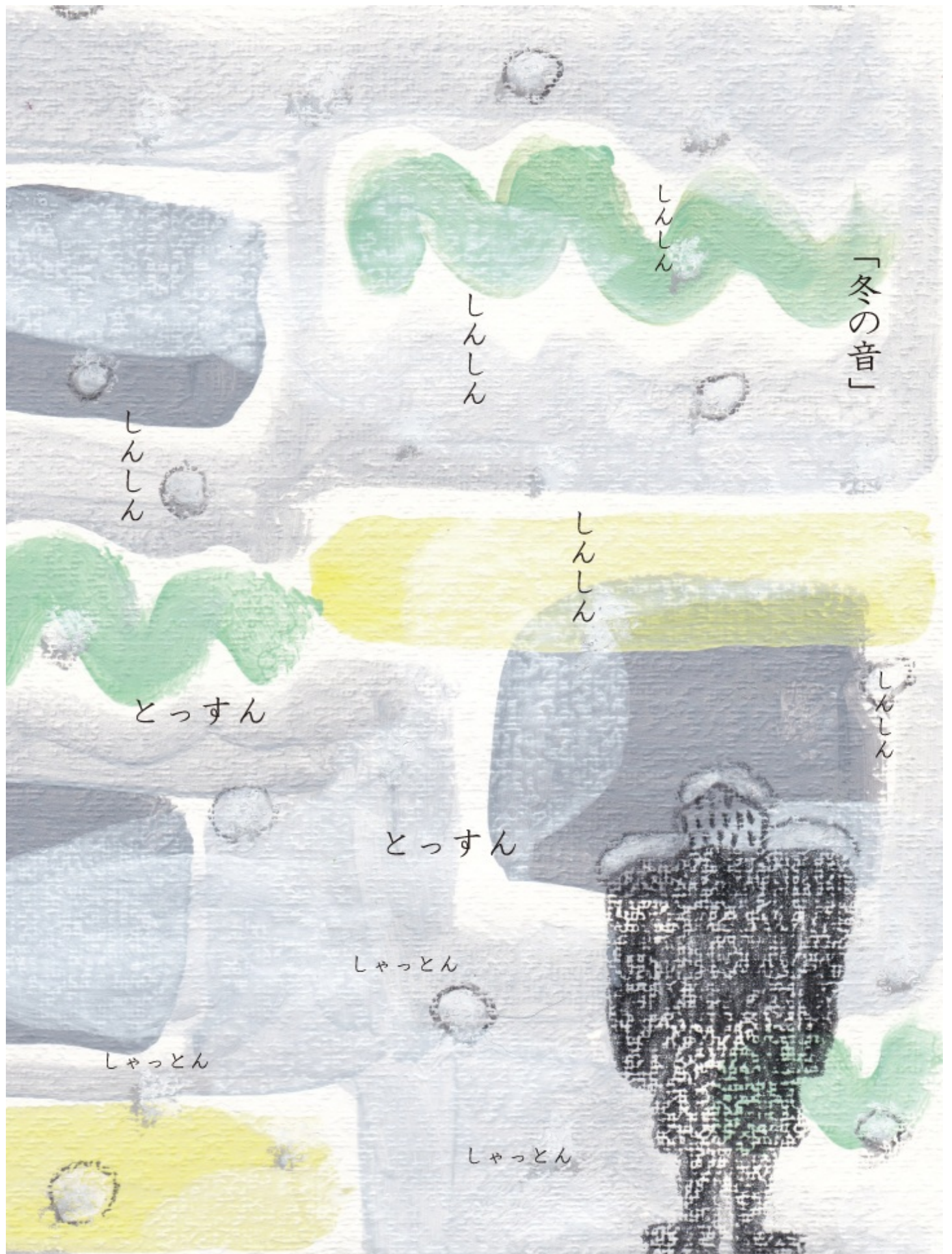
知っている人からすればあたりまえのことも、

知らない人からすれば絶好の想像のチャンス。

日々（ひび）の想像は、頭の中の小旅行。

あなたの少しの時間のお供になりますように。

 コア"マ



名字のはなし

おもしろい名字、珍しい名字から思いついたことを自由にかきます



あちらに座っている方は、ひいひいお爺さまの代から続く銀行の重役でいらつしやいます。大変地位と権力のある方ですが威張らず控えめでとても評判の良い方です。ただひとつ、彼には、いえ彼に対して私たちには秘密があります。彼は時計の短針が三の倍数を示すとき、灰色の鳩になってしまうのです。そのことに、彼自身は気付いておりません。彼は小学校のご学友にたった一度鼻が低いとからかわれたことを大人になった今でも気にして、それ以来徹底して鏡や写真にうつろうとされないので、ご自身の姿を見ることがないのです。また、他人から外見のことを言われるのを異常なまでに嫌い、誰かが彼の外見に関して何か言おうものなら、普段の穏やかな彼はどこへやら、この世のものとは思えないような形相で叱りつける始末です。そんなことなので彼の外見に関して誰も何も言うことが無くなり、鳩になってしまっていることも彼だけが知らないのです。



名字のはなし

のはなし

鳩になってしまふ男の話は、十代の頃にも一度書きかけたことがありましたが、その時はあまりにも暗い展開になってしまったので途中で頓挫してしまいました。それをまたなぜ数年ぶりに思い出して書いたのかと言うと、「小鳩さん」という方がいらつしやるからなのです。鳩男は、見た目に強い劣等感があり、外見について何か言われることに過剰に反応する欠点があります。ただ、彼の内面の良さを周りの人は知っているのです、彼の外見のことには触れないという暗黙のルールのもと、彼はそれなりに幸せに暮らしています。名字のはなしとしてはこれで完成していますが、ひとつの物語とすると「転」と「結」が足りません。モノ書きとしてはここからなにか事件を起こし、オチを付けなければいけません。でも彼が鳩になってしまふのは、世の中に嫌気がさしたからでも、何かの罰でもなく、ただただ個性のひとつで手の込んだ裏設定はありません。事件のあと、彼にこれまで以上の幸せが訪れる保障はないですし、むしろ大不幸が訪れる可能性だってあり得る。だったら今のままで、わざわざ波風立てなくてもいいじゃないかと老婆心から思ってしまうのです。しかしこのままオチがないとモノ書きとしても関西人としても失格なので、えてオチを付けるとすれば、実は周りの人も定時に鳩になってしまうのだけれど、みんながみんな遠慮して、相手を気遣って、お互いにもじもじして、でも結局みんな鳩、という展開でしょうか……。数年ぶりに書いといてまた頓挫か、ですって？いえいえ、こういうときの為に魔法のことばがあるのです。

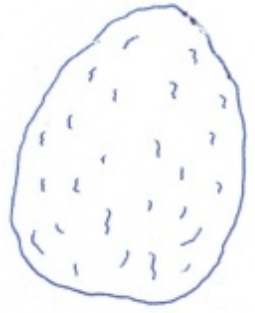
つづく

全国の小鳩さん、いつもすてきな名前です。ありがとうございました。



なまえあれこれ①

見たこともないものを目にする時、自分の国の言語に置き換えたく
なるのは人類共通なのでしょうか。でもあれ、アボカドを「鰐梨」と
呼ぶのには驚きました。あんなに食べるのに勇気が要ります。
他にニホはこうあえはこうと語を上げようと思ったのですが、そう
都合良くはいきません。





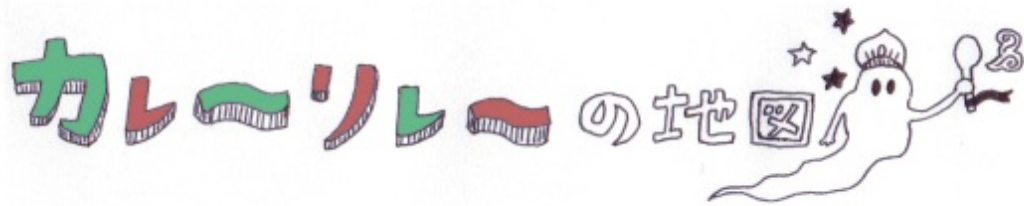
おいしいカレー屋さんが教えてくれるカレー屋さんはおいしいはず！
カレー屋さんに導かれカレー屋さんをめぐる旅の記録です。



カラピンチャ



カレーリレーの地図



START!

① Karahi Curry (京都)



② GHAR (肥後橋)



③ ガネーシウム (北浜) → ④ ガネーシウム (天神橋)

↓
谷口カレー



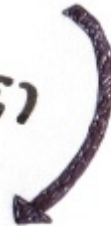
⑤ セイロンカレー (南船場)



⑥ ヌンクイ (堺)



⑦ リトルランカ (西ノ宮)



⑧ カラピンチャ (王子公園)



あれそれカレー



第二回 (そのスパイスってなんなん?)

カレーリレーを始めるまではカレーは家で食べるものでわざわざ外で食べるものではありませんでした。唯一外で食べていたのが四条寺町のアショカで、そつもカレーが目的というよりか、ナンやタンドローチキン、サモサなど家の食卓では並ばり、異国の料理を食べるためでした。そつが今ではすっかり方向転換し、「カレーは外で食べるものだ」が定着しました。以前はそつこつがラムササラをいぢから作ったりして、相当にスパイスを買ひ込みカレーを作っていました。最近ではめつり作らなくなつてしまひました。というのも、お店で食べるカレーと比べると明らかに何かしらのスパイスが足らなひのです。が、そつが何なのかを自分で探つたかたは、自分で作つたカレーを食べても、精一杯のスパイスの向こうにあるのは、北の味。というこつで、今回は「そのスパイスってなんなん?」と題し、コチマのカレーカを高めるべく、そつこれらのスパイスの特徴を改めて勉強したいと思ひます。



食談書



「決定版レヌ・アロラの おいしいインド料理」のオーソドックスなチンマカレーとチンカレーに使われているスパイスは5つ!!

- ① クミン ② コリアンダー ③ レッドペッパー
- ④ ターメリック ⑤ ガラムマサラ (+ アショカ)

この5つは石臼!! このスパイスで、おうちカレーを極めます。

① CUMIN
クミン
スパイスは GABAN 信州産。(見た目がこぶこぶ)
細かくて良い香り

- ・北インドの代表的なスタースパイス
- ・食欲が湧くスパイス
- ・油で炒めるとよつも良い香り! よたよた

② CORIANDER
コリアンダー
粉で購入
北米産のこぶこぶ

- ・カレーには多量に含まれる
- ・こつもつは、味をまろくする
- ・鉄湯の薬湯にいい味
- ・又はセウもよく煮出した、スープ的な味

③ RED PEPPER
レッドペッパー
S&B
細かくて良い香り

- ・レッドペッパーはチリペッパー、カイエンペッパー、サシペッパー、フリノペッパーに代わらないよつ。

④ TURMERIC
ターメリック (ウコン)
スパイス

- ・色づけと味づけのスパイス
- ・体の調子もよつる
- ・木、はちみつ

⑤ GARAM MASALA
ガラム マサラ
スパイス

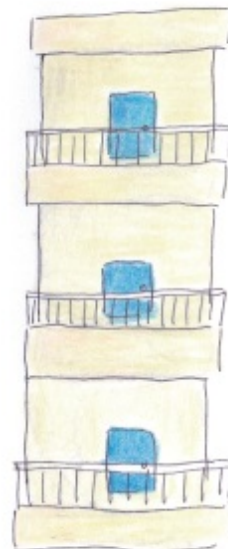
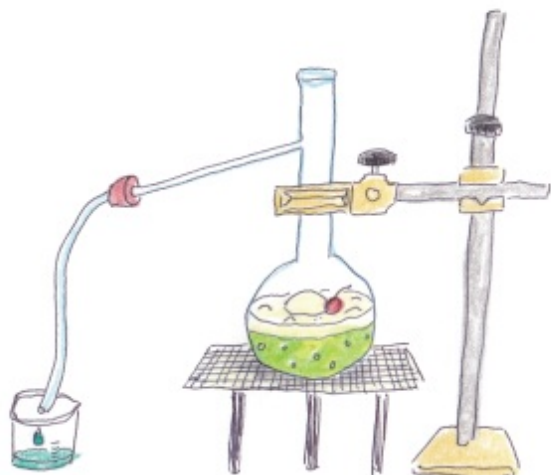
数種類のスパイスが合わさつたもの

- ↳ オールスパイス、ブラックペッパー、シエン、ローリエ、カシヤモン、クミン、クローブ、バジル、コリアンダー、ガーリックパウダー
- ・スパイスの良い香り、爽やか
- ・ピリッとした、チキンのような味
- ・ブラックペッパーとシエンがよつる
- ・レヌ・アロラとは、クミン、クローブ、ブラックペッパー、シエン、バニラ、ピリッカルゲンでつくる。



skoshi hanashi
すこしはなし
—Winter—

京阪電車のシートはふかふかしていて気持ちがいい。あともう少し、背もたれがなだらかならもつといい。電車は小さな振動で又メヌメとひたすらに地味な風景を走り抜けていく。斜め前に座っている女性は五〇歳くらいだろうか、黒いスーツに身を包み無気力な顔をしている。二、三周首を回すと、シャカシャカとビニール袋の音を立てて鞆から黒い魔法瓶を取り出した。魔法瓶にはなんとヘルスケアと大きくプリントされている。プシュケと軽い音で缶をあげ、中身を魔法瓶に移す。アルコールだ。彼女はアルコールを移している。魔法瓶は三五〇mlも入らないらしく、一度手を止めて魔法瓶に口をつけ、残りを手際よく移しきった。彼女が魔法瓶に口をつけるたび、カラカラと軽やかな音が鳴る。中には水を入れてあるのだ。ライム味のアルコールを顔色を変えずに呑み干すと、鞆から二本目が出てきた。先ほどと同じように手際よく移し、それをまた彼女はカラカラと音を立てて呑む。今、窓際には空いた缶が二本と黒い魔法瓶が並んでいる。少し酔いがまわったのか、うつらうつらしながらしきりに顔をこしこしとこすっている。彼女の体の中に七〇〇mlの水分が入り、鞆は七〇〇mlぶん軽くなった。でもきつと七〇〇mlぶん体は重くなったように感じないから、なんだか安心した。彼女はまだ顔まわりをこしこしこすっている。少し、アトピー持ちなのだ。アルコールで体が火照って、そして痒

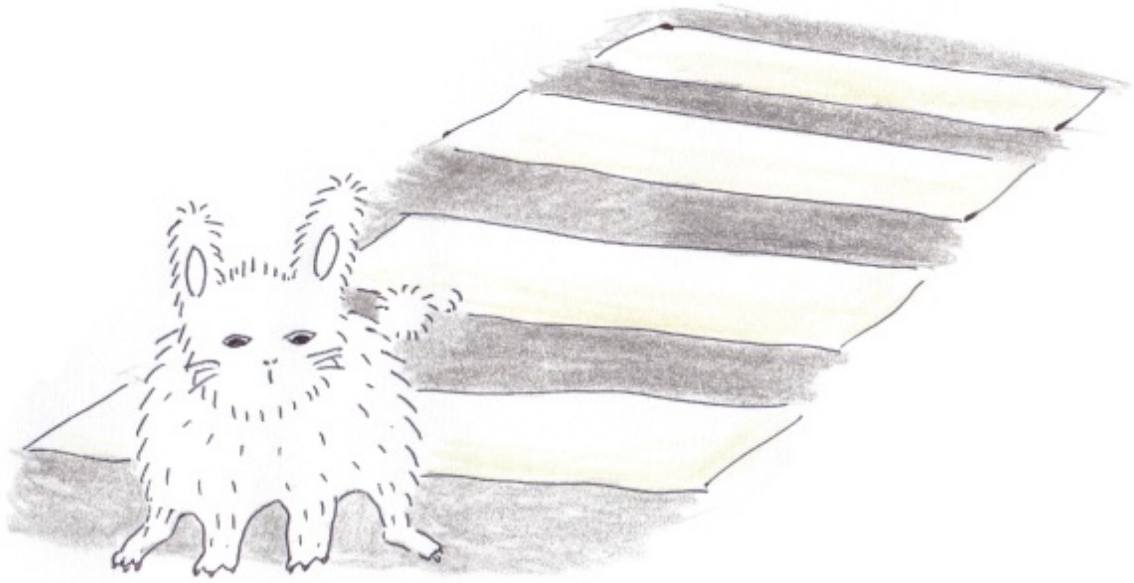


くなりだしたのだ。痒いのはよくない。痒いのは搔かずにはいられないからよくない。掻きむしってうっすらと血の滲んだ額を、彼女は前髪で隠した。私が降りる駅の手前で彼女は電車を降りた。彼女の姿をさがして人の波を目で追ったが、見つからなかった。彼女は手に持った二つの缶を捨てに、ホームの端のゴミ箱に立ち寄ったのかもしれない。彼女とはもうきっと会わない。そのことがなんだか安心した。

彼女を見失ったあと、窓から見えたブルーのドアのアパートのことが気にかかった。普通によくある、どちらかという地味な四角いアパートなのにドアの色はブルー。周りに馴染まない鮮やかなブルー。あのアパートの一室で科学者が怪しげな実験をしているのに、誰も気に留めていない。気付いたのはきつと私だけだ。

「そう見ようと思えば、それが見える」

科学者は非科学的なことをドアの向こうで言う。部屋の中には理科室にあるようなたくさんの丸底フラスコが火にかかれ、中ではクリームソーダがグツグツと沸騰している。科学者は近くの三角公園から連れ去った若い女をイスに縛りつけ、沸騰させたクリームソーダから抽出した液体を女の体に注射器で投与する。女はイスの上で怖がるでもなく、指で睫毛を引っ張りマスカラをはがしている。女は尚も睫毛を引っ張りながら私にこう言う。



「あなたはいつも現実をひねくり回して、そうしてその結果いつも不真面目なのね」

今、アパートの一室はふたつ窓のついた白い大きな兎小屋に変わり、誰の姿も見えなくなった。私は電車を降りて、小雨の中を足早に歩いていく。途中で買ったコロッケパンが濡れてしまわないか心配だ。横断歩道の赤信号で立ち止まったあたりから、ふわふわの兎が歩いてきた。名前を聞くと、「かとう」だという。かとうはただただついて来て、私が振り返るとしっぽを振る。堅実な脳みそと感化された脳みそは常に同居している。どちらをどの割合で引き出すかは私の裁量で決まる。だからこれらは真実ではないが、全くの嘘でもない。だけど兎はしっぽを振らない。そう、うさぎはしっぽを振らない。

— 白昼兎 (はくちゅうう) —

白昼兎 (はくちゆうう) あとがき

今回のおはなしは、ある兎小屋のような不思議な形をしたギャラリーへ行った帰り道の出来事を書いていきます。といっても全ての出来事が現実起こった訳ではありません。前半は実際に目にしたことですが、後半はわたしの自由な想像です。時々、なにかの発作のようになにを見ても想像してしまうことがあります。想像上で起こったことは現実ではありませんが、ただ、想像した本人としては脳みその中では見えているので、まったくの嘘とは言いがたい。なんとも不思議です。おはなしとしては、なんのこっちゃという感じかもしれませんが、ただ単純に次々と出てくる登場人物を、みなさんの頭の中でも自由に想像していただけないかと勝手に思っています。

なまえあれこれ②

そして今、鯨(ワニ)という漢字が魚(さかな)であることにも驚きました。ワニは爬虫類ではないかしら。「鯨」の方が良いのではないかしら。そうなるも鯨(クジラ)もいけません。もってミルク感を出さなければ。「鯨」の方が良いのではないかしら。人間(ニンゲン)も哺乳類ですからもって乳感(ラク)を出さないも。でもホタテ(ホト)偏(ヘン)が見当たりません。じゃあ上につけ足して「チチシヤン」乳人間(ラクニヤン)なんてどうかしら。いけません。こたではいけません。

④ 鑑(カン)から追放(ツイハツ)させてしまえ。乳人間(ラクニヤン)………乳人間(ラクニヤン)………

カラダの80%占めろ
乳をまえるために
四足歩行に戻してしまいました。
もともともありません



「シシ」

end



2017 Winter号

イラスト&文：コダマ

mail : codama235@gmail.com